

乳がんに対する治療

<はじめに>

乳がんという病気は命に関わる可能性のあるものですが、適切な治療を受けることにより、治ることの方が多岐な病気でもあります。乳がんを診断されたら、すぐに手術ではありません。適切な診断をおこない、手術、術後の治療の作戦を詳細に練ることが重要です。

<治療>

治療は①乳房 ②腋窩リンパ節 ③術後の全身の治療に分けて考えます。

①乳房の治療

乳房切除術：乳がんが乳腺内で広がっている場合、乳房全部と皮膚の一部を切除。

*以前は大胸筋、小胸筋をも含めて切除していましたが、現在ではほとんどの場合残します。

乳房温存術（乳腺部分切除術）：乳がんの周囲を含めてやや広めに切除し、乳房のふくらみを温存します。術前検査で乳房内のがんの拡がりが高度である場合は適応となりません。

術前化学療法後の乳房温存術

大きな腫瘍でもよく薬が効いて縮小すれば乳房を温存できる可能性があります。外来にて化学療法（6ヶ月）を施行した後、手術となります。

放射線治療

乳房温存術を受けられた方は、退院後、放射線科にて乳房に対し放射線治療を行います。放射線治療は5~6週間毎日通院する必要があります。

②腋窩リンパ節の治療

リンパ節郭清：周囲の脂肪とともに決められた範囲のリンパ節をまとめて摘出すること
[合併症]リンパ浮腫(手術側の腕がむくむ状態)、蜂窩織炎(腕に細菌が侵入して感染する)手術後腕が上がりにくくなる。わきの下の知覚異常(痛み、しびれ)など

センチネルリンパ節生検

センチネルリンパ節とは、乳がんが最初に転移するリンパ節と考えられています。

当院では手術時に青い色素を注入し探します。色素はリンパ管を通過して腋窩リンパ節に流れていきます。青く染まったリンパ節を摘出し、手術中に病理医が詳細に転移の有無を調べます。リンパ節転移の無いことがわかれば、リンパ節郭清を省略することで、郭清に伴って起こりうる合併症を減少させることができます。

手術に要する時間：乳房・リンパ節を含めて 2

時間前後です。手術後経過が順調なら術後 3 時間程度から水分摂取、歩行を始め、翌日より食事が開始され、数日で退院となります。

③術後の全身療法（遠隔転移の予防）

目的：どこかに潜んでいるかもしれない小さながんを今のうちに抑え再発を予防することです。手術により得られた情報を元に個人に合わせたテイラーメイド治療を計画します。

化学療法（抗がん剤）：

複数の抗がん剤を組み合わせで使います。（3ヶ月から6ヶ月、または1年間の通院治療）

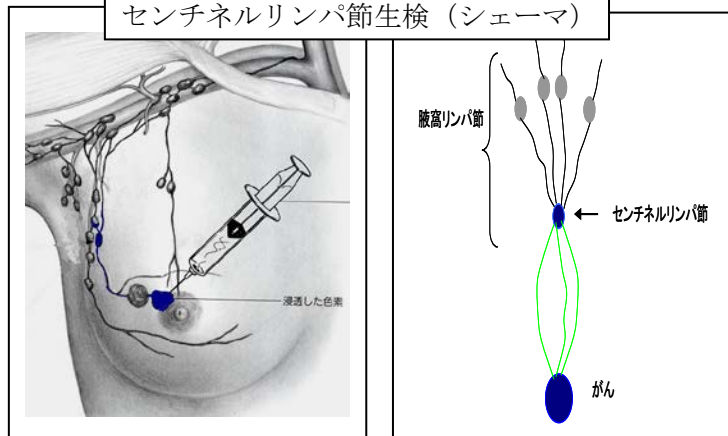
内分泌療法（抗ホルモン剤）：

乳がん細胞には女性ホルモンの刺激で増殖・再発を起こすものがあります。手術で得られた情報より内分泌療法の反応性を調べます。術後5年間の内服治療を行います。

<まとめ>

このように乳がんは手術で得られた情報をもとにして放射線療法、化学療法、内分泌療法など、個人に合う治療を選択し決定いたします。そのためには乳腺外科医、放射線科医、病理医、薬剤師、看護師の連携が重要です。また、治療を行ったらそれで終わりではありません。定期的に外来へ通っていただき必要に応じ検査を行います。そのためには末永くつきあえる病院を選ぶことが必要です。

センチネルリンパ節生検（シエーマ）



術中写真

